

施策評価シート(平成27年度評価実施)	担当部課名	建設部 土木港湾課	関連部課名	上下水道部 下水道課
基本目標	安全で快適な魅力あるまちづくり【都市基盤・安全】			
施策名	河川・排水			
災害に強い安全な河川にするために、関係機関との連携による計画的な河川・排水施設の整備、局地的な豪雨や高潮などへの対応能力の強化を図るとともに、潤いのある水辺環境を形成するために、河川の親水性の向上や、住民との協働による河川愛護などの取組を推進します。				
施策が目指す蒲郡市の将来の姿				
<ul style="list-style-type: none"> ●自然環境に配慮した河川改修により、うるおいとやすらぎを感じられる水辺空間になっています。 ●豪雨や高潮災害に強いまちになっています。 				

◆具体化した施策の取り組み実績

1 準用河川・普通河川の改修の推進

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27度計画
尺地川河川改修事業 (整備計画延長L=220m)	0	0	0
硯川河川改修事業 (整備計画延長L=240m)	0	0	設計委託 5,778千円

2 二級河川の改修の推進

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27度計画
西田川河川改修事業 (整備計画延長L=1,500m)	工事(護岸)L=50m 52,446千円 設計委託 2,814千円	設計委託 1,620千円	工事(護岸)L=100m 47,780千円
落合川河川改修事業 (整備計画延長L=1,800m)			

3 親水性・自然環境に配慮した河川の整備

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27度計画
河川愛護活動(参加人数)	参加者 390名	参加者343名	参加者予定 350名

4 排水施設の整備・拡充

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27度計画
下水道事業(雨水) (事業認可区域面積A=1,396haの内 816.85ha施工済)	整備面積A=0.0ha	整備面積A=1.15ha	整備面積A=0.48ha
江畑排水路整備事業(整備計画 延長L=494mの内117m施工済)	-	-	-
羽栗排水路整備事業 (整備計画延長L=280m)	工事L=269m 69,400千円 補償 4,681千円	工事L=11m 19,000千円 補償 600千円	補償 2,000千円

5 浸水対策の推進

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27度計画
高潮対策施設整備事業	工事(樋管1箇所) 1,995千円	工事(樋管0箇所) 0千円	工事(樋管10箇所) 3,000千円

◆評価指標

指標名	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	将来目標
準用河川・普通河川の改修工事延長進捗率	目標値	/		0	100%
	実績値	0	0	/	
二級河川の改修工事延長進捗率	目標値	/		22.40%	33%
	実績値	2.82%	15.80%	/	
下水道事業(雨水)雨水施設整備率	目標値	/		58.66%	100%
	実績値	58.51%	58.60%	/	
その他排水路整備工事延長進捗率	目標値	/		51.29%	100%
	実績値	49.87%	51.29%	/	

◆指標の説明・考え方

指標名	説明・考え方
工事延長進捗率	工事施工済延長÷整備計画延長×100 (%)
雨水施設整備率	雨水施設整備済面積÷事業認可区域面積×100 (%)

◆指標の分析

準用河川・普通河川については、現在、市域整備率約93%と高いため、主に維持管理業務を行っています。尺地川及び硯川の2河川については、緊急の対応が必要なため整備を行っていく。愛知県施工の二級河川については、計画的に工事が進捗している。排水施設の整備については、浸水箇所や排水不良箇所を中心に計画立案し整備を行っている。

◆今後の方針

施策の課題
準用河川・普通河川の市域整備率93%については、過去の整備実績の累計を表しているが、降雨確立等の基準に照らし合わせると、河川断面の不足となる箇所が多々あると思われます。これらを解析し、いかに有効的に整備を進めていくか検討する河川整備計画の作成が必要です。また、浸水箇所等については、河川整備計画に合わせて排水路整備計画を作成する必要があります。

今後の施策展開
現在急務となっている事業については、すみやかに事業の進捗を図る。
また、東日本大震災や近年のゲリラ豪雨等により、基準の見直しや国の施策の動向、及び愛知県のご指導等も頂きながら、河川整備計画、排水路整備計画及び高潮対策整備計画等を作成し、緊急度の高いものから計画的に整備を行っていく。
この計画作成に当たっては、親水性や自然環境との調和等も考慮し、河川愛護活動の促進方策も合わせて検討していきます。

課長評価	構成事業の進捗状況	B:おおむね計画どおり進行している。
	施策の進め方	B:一部見直しが必要である。
	コメント	今後の河川・排水の維持管理及び計画作成には、GISシステムへの参入が必要になり、そのためには、現状の台帳整備が必要です。さらに維持管理面については、長寿命化計画の作成、能力不足箇所については、個々の改修計画作成及び改修工事へと進みますので、まだまだ、多額の財源が必要になります。財源確保に向け、国、県との調整が早期に必要となります。

	<p>施策の 進捗状況</p>	<p>B: 目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり進行している。</p>
<p>部長評価</p>	<p>コメント</p>	<p>蒲郡市の管理河川である準用河川・普通河川においては93%の整備率となっているが落合川、西田川の県管理河川においては、未改修部分が残されているため、県に対し要望と事業協力を行い早期改修に向け努力していく。また、国が進めている「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、台帳整備、現状調査を行い補助事業に対応できる改修計画を策定し、財源確保と共に早期実施を図りたい。</p>